

心の中、 独りシーソーゲーム

「ここ最近お寺に相談にお越し下さる信者さんの中には、「仕事が目白くないのです。やはり人間関係ですね…。先輩に後輩、そして同僚との折り合いがうまくいかないのです…。すでにいくつかの職に就くもやはり続かないのです。それよりも自分の好きなことをして楽しみたいのに時間も無い、どうしたら良いでしょうか？」と、こういう悩みをお持ちの方が増えて参りました。皆さんだったら何とアドバイスなさいますか？」

恐らくは、「何か夢や目標を持って、

もう少し今の仕事を続けてみなさいよ。そうすれば、今はまだ見えていない良い部分も見えてくるに違いないから、頑張りましょう…」なんて事を仰るのではないのでしょうか？そうです、私もこの様なアドバイスをしましょう…。

ところで『仕事』って何でしょうか？仕事って何のために、誰のためにする

ものなのでしょうか？当然、自分のためでもあり、何より家族を養っていくためであるというのが答えになるでしょう。次の様な言葉があります…。

・「職業の自分は自己を磨くことである」
・「仕事を通して自己を磨き、仕事を通して世の中の役に立つ」

・「仕事とは自分を生かす最高の教科書、重要な自己修練の場所…」

自己を磨きながらワクワクし、人の為に仕事をする。ワクワクするのは、人の為になるからです。逆に人のためになつていないと何になるのか？ただの遊びになってしまう。仕事は人のためにするから飽きはこない。逆に遊びは、仕事をする為の学びだと考えるべきでしょう。「遊びはやっていると飽きるが、自分の仕事はやればやるほど面白くなる。これが仕事の本質です…」

それから世の中は因果応報です。人に与えたものが返ってくる。だから自分が楽しみたかったら、人のために働けば良い。そういうことではか楽しめないように、人間は出来ているのです。働くとは、他を楽にさせる（他楽はたらく）事だと言います。他を楽しませると自分に楽しいことが返ってくる。仕事の本質はそれ。それをややこしく考えるから、本当

のことが分からなくなる。
過去がどうだったか等々の経験にこだわらなくてもいい。

「過去はどうだった」とか、「前例がない」とか「よそはどうだった」とか、経験と度胸だけで生きる時代は終わりました。「過去は今、今は未来」…自分は他人と過去は変えられないが、自分と未来は変えることが出来る。過去の失敗をやり直す事は出来ないが、その失敗を活用することは出来る。

私達人間は、欲も多いし未熟な生き物だと私自身振り返ると、それをつくづくと感じます。

山あり谷ありが人生というものです。だから時には負けなさい。時には苦しみなさい。負けたことを時には悲しみなさい。そしてその心の傷を深く刻んで、その傷を人に与えないように、その傷みを治してあげられるように、また、立ち上がれば良いのです。

順調であると私達人間はすぐにおごり高ぶってしまう。時々、負けなさい。負けて痛みを知って、次に備えなさい。勝ち続けてきたら、順調でありすぎたら、自分の心のあり方に警戒した方が良いでしょう。おごっていないか、見栄を張っていないか、経歴を誇っていないか、威

張っていないか、偉いと思っていないか、大した企業だと思っていないか…。そして大きな会社、有名な人ばかりと付き合っていて自慢していないか。小さな弱い人や、中小企業や農業者達をバカにしていないだろうか。私達は皆、変化に弱く、一瞬にしてこの世の景色が変わる体験をする事があります。当然いつまでも今の風景の中で生きてゆけるわけではないのです。

この世の中の目指すべき方向は、愛と感謝が溢れる豊かな社会と考えます。愛があつて「ありがとう」の感謝がたくさん返ってきて物質的にも豊かである。それが理想の社会なのです。『人間の一生というのはシーソーゲーム。光りと影のバランス調整…』

合掌

副住職 谷川 寛敬

